

【様式8】施設設計にあたっての考え方に関する提案

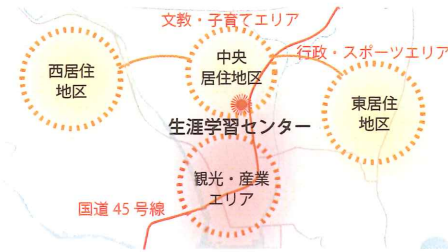
ワクワクがひろがる ミナサン(南三陸)の学び家

諸室の連携を促す集約型の空間構成と、屋外を積極的に活用し外部からも活動が見える開放的な施設構成により、内にも外にも交流と発見が広がる施設とします。学びと交流の連鎖を生むことで、個だけでなく街が育つ生涯学習センターをつくります。

(1) 南三陸町の地域状況、敷地の状況を考慮した提案

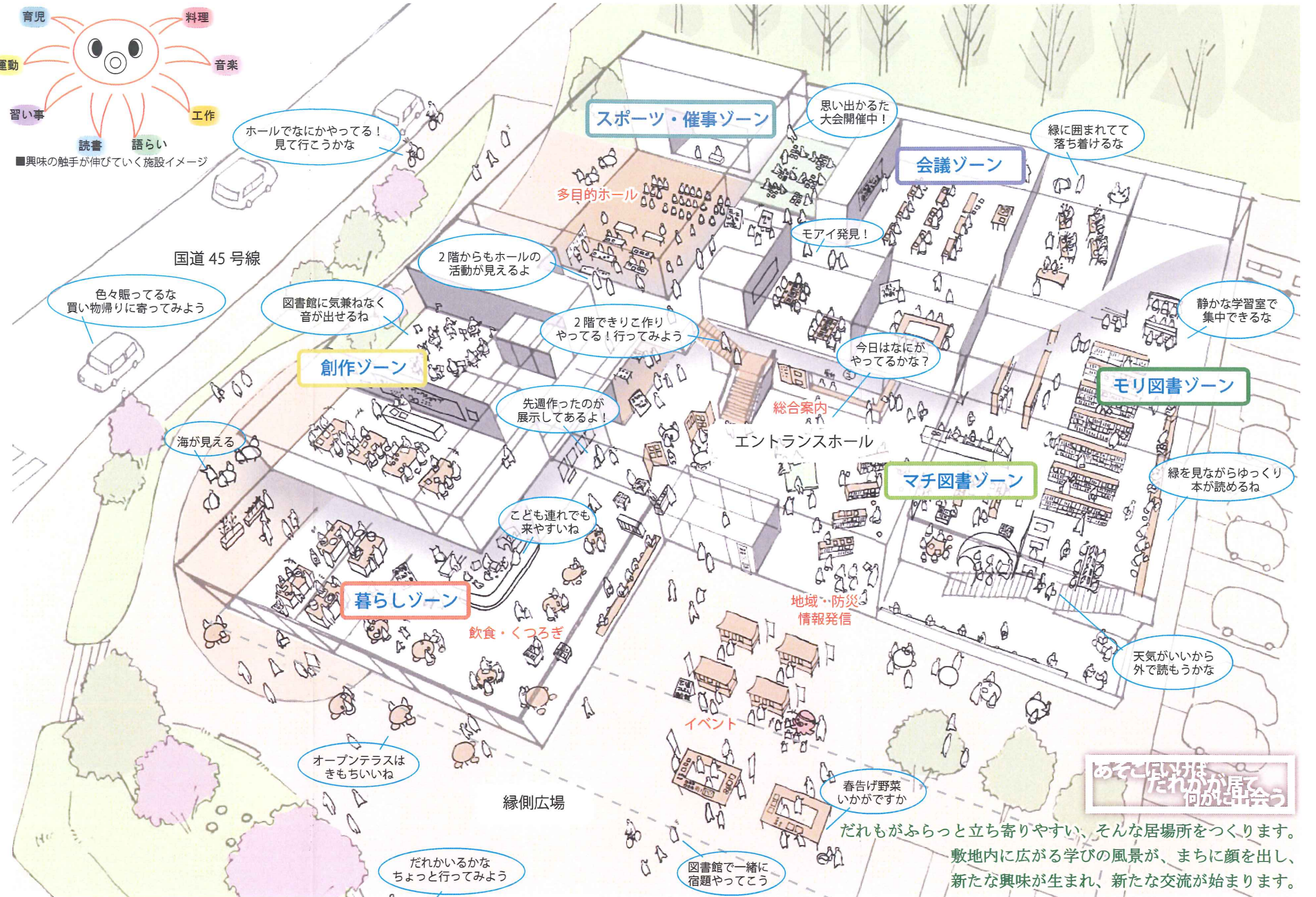
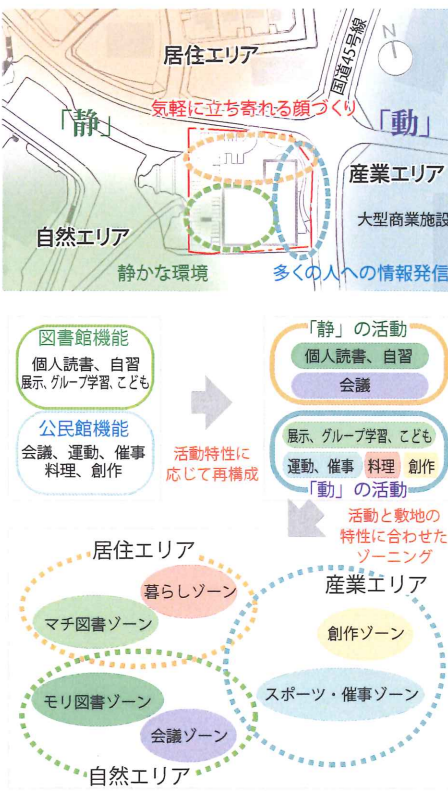
新たなまちに活動と交流の拠点をつくります

- ・志津川地区の3つの高台居住地区と、沿岸から続く観光・産業エリアとの結節点に位置する施設として、学びの場であり生活の場でもある、地域の活動と交流の拠点づくりを目指します。
- ・町内の他施設との連携を意識した施設計画により、地域の持続的な発展を支える施設とします。



敷地が持つ多様な環境を活かします

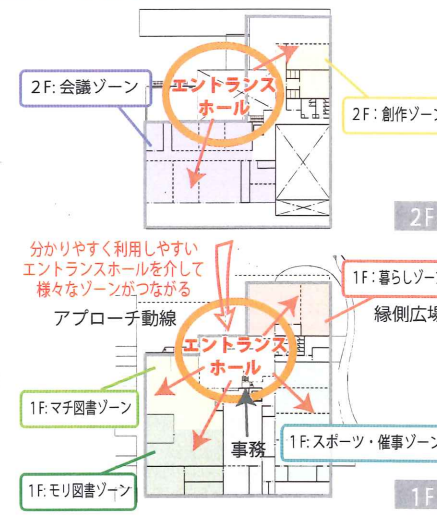
- ・敷地は、北の住宅エリア、東の国道沿いの産業エリア、南西の杉林の広がる自然エリアに囲まれています。図書館機能と公民館機能を諸室の特性に合わせて再構成し、敷地周囲の状況に呼応した特徴あるゾーンを形成する計画とします。
- ・居住エリアに面するメインアプローチは、縁側広場、エントランスホール、飲食スペースを配置し、気軽に立ち寄れる施設の顔をつくります。
- ・多くの人が集まる産業エリアや国道45号線に面する東側は、様々な活動諸室を配置し、賑わいのある南三陸の文化発信拠点としての施設の顔を作ります。
- ・図書館はエントランスに面して誰もが立ち寄りやすい「マチ図書ゾーン」を配置し、静かな自然エリアに「モリ図書ゾーン」を配置します。
- ・建物をコンパクトにまとめて屋外にも活動空間を確保し、周辺環境-屋外-屋内の一連の関係性を生み出します。



(2) 基本構想に定める機能を解釈し、住民等が利用しやすい施設計画案

機能特性ごとの明快なゾーニングにより、異なる機能を快適に共存させます。誰もが分かりやすく、使いやすい、ユニバーサル学習センターです

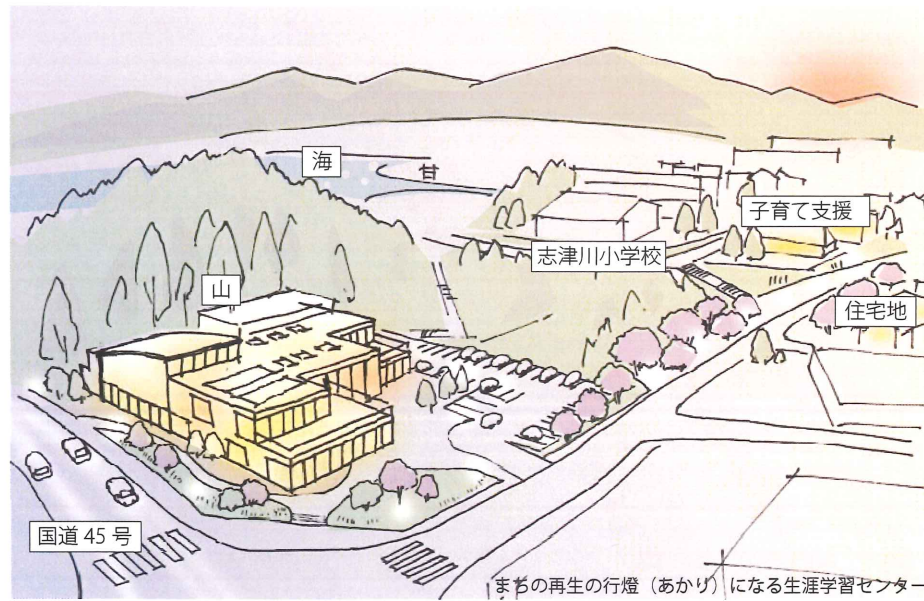
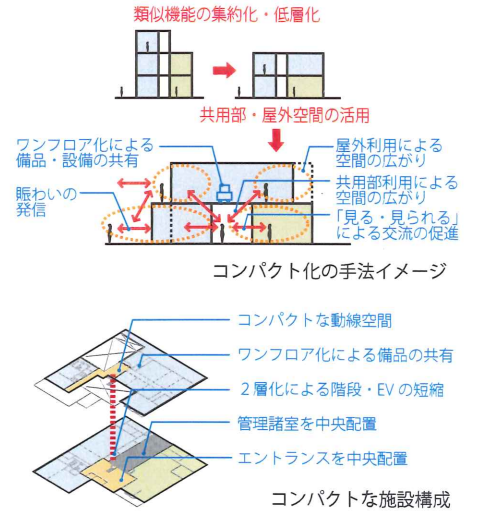
- ・建物はコンパクトな2階建とし、吹抜けでつながった親密感のある空間構成により様々な出会いと交流を生み出します。
- ・エントランス空間と管理諸室を建物中心に配置し、管理・サービスがしやすく誰もが分かりやすい計画とします。
- ・多くの人が使用する【マチ図書・モリ図書ゾーン】【スポーツ・催事ゾーン】と、屋外空間と連携して賑わいを生み出す【暮らしゾーン】を1階に配置します。
- ・少人数での利用や、活動に応じて大小に区切れるフレキシブルな【会議ゾーン】は南側の自然に面した2階に配置します。
- ・【創作ゾーン】は屋上（創作広場）に面して配置することで野外活動への展開と外部への活動の発信をを可能とします。



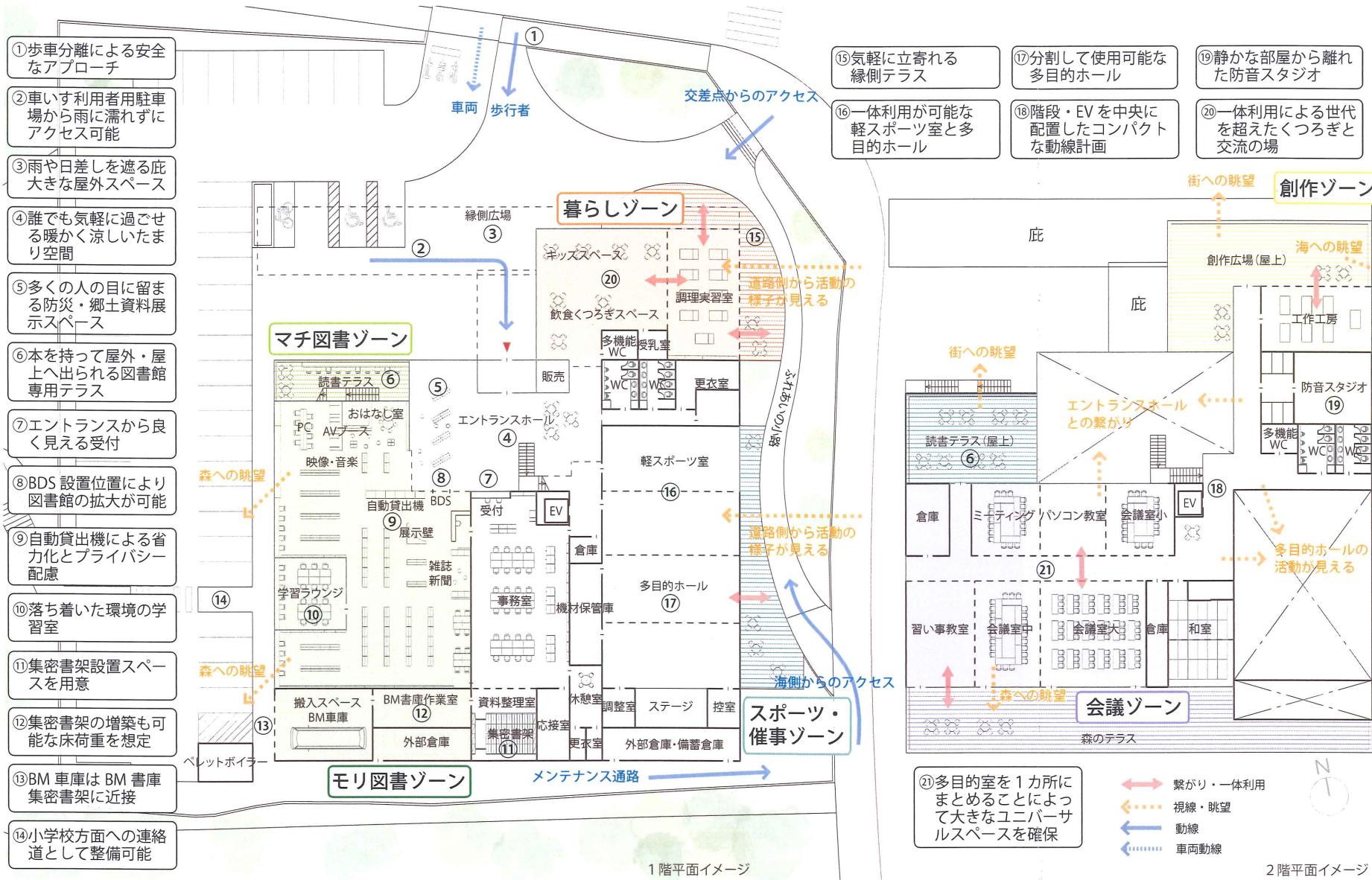
(3) 複合施設であることのメリットを生かしたコンパクトな施設計画案

共用部・管理機能を集約化し、施設の中心に配置することでコンパクトで交流を生み出しやすい施設構成とします

- ・2階建とすることで縦動線や廊下・トイレといった各階に必要な共用部を減らします。また、エントランス・管理諸室を中央配置することで平面的な共用部面積も集約します。
- ・関係性の強い諸室をワンフロアにまとめることで、空間・設備・備品を共用し易い計画となり、コンパクトな運用を可能とします。
- ・各諸室に屋外活動スペースを隣接させることで、限られた室内空間でも広がりのある活動を可能とします。
- ・動線を集約することで、各諸室の関係が近くなります。「見る・見られる」の関係をつくることで、新たな発見や出会いの機会を増やします。



【様式8】施設設計にあたっての考え方に関する提案



(4) 将来の利用の変化にも対応可能な施設設計案

鉄骨造による合理的な構造とします

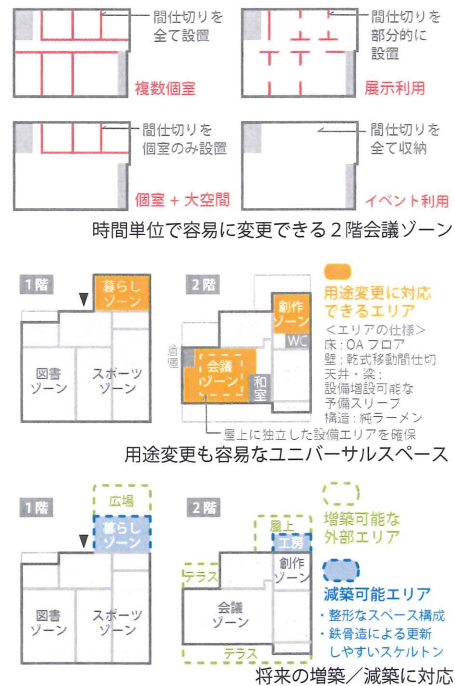
- ・東北地方におけるコンクリート価格の上昇と敷地が盛り土であることを考慮し、構造は鉄骨造を採用します。
- ・耐力壁のない鉄骨の純ラーメン構造とすることで、将来の利用の変化に対応した改修、増減築がしやすい計画とします。

普段使いから将来対応まで考えます

- ・「スポーツ・催事ゾーン」や「会議ゾーン」は、可動間仕切りによって部屋を区切るにより様々な使い方ができます。
- ・個々のゾーンの独立性が高いため、用途変更によるさらなる複合化も可能です。

拡張性の高い図書館とします

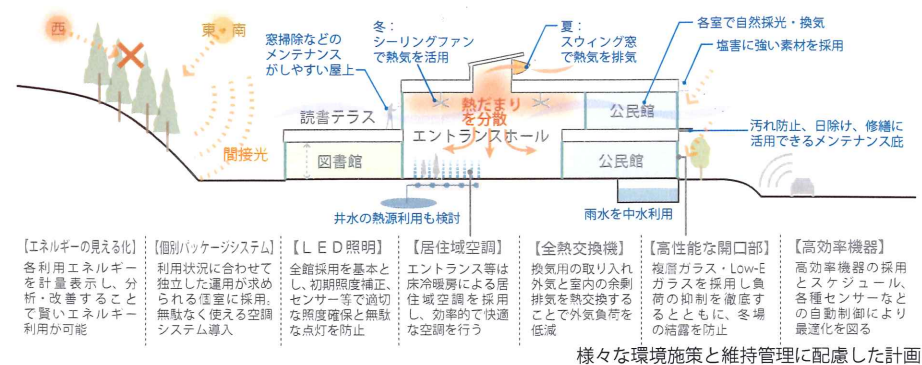
- ・集密書架の設置により、蔵書数の増加へ柔軟に対応します。
- ・エントランスホールを活用することで、将来に渡って自由な展示、閲覧スペースを設けることが可能です。
- ・BDSの設置位置により、図書館エリアが拡張可能です。



(5) 維持管理コストの低減に配慮した施設設計案

まちに根差したちょうど良い施設とします

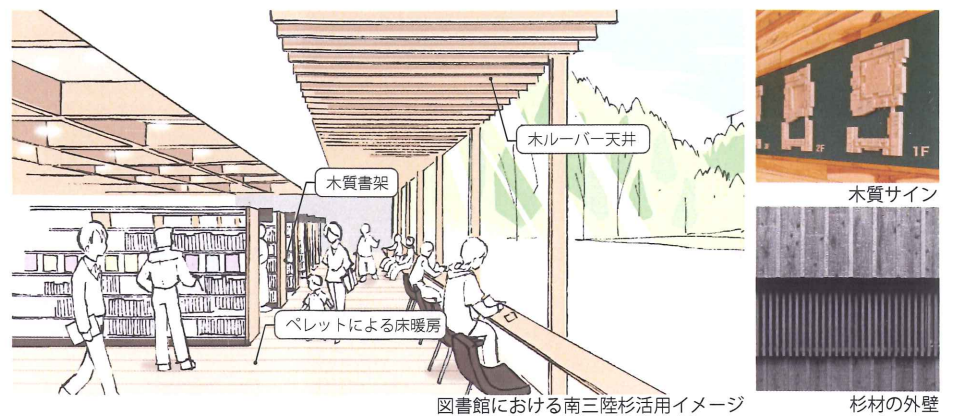
- ・高断熱、高気密化を図るとともに、地元焼杉材によるダブルスキンや、空気層を設けた透過型太陽パネルによる二重屋根を計画します。
- ・大空間の暖房は「天井吹出→床吸い込み→再加熱→窓面で吹上」とし、床からのふく射熱で快適な環境をつくります。
- ・個室は個別空調とし気積や利用状況に合った適切な空調方式を選択します。
- ・耐久性の高い材料を採用するとともに、シルバー人材ボランティアによる清掃、地元工務店による修理が可能な建物とすることにより、だれもが維持管理に参加できる施設とします。



(6) その他提案

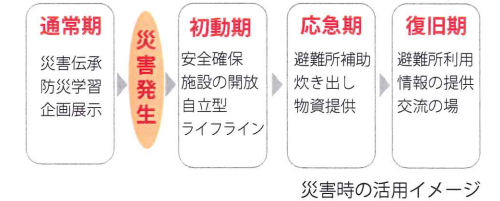
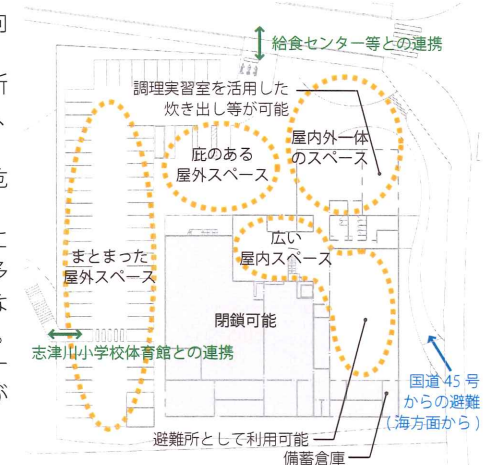
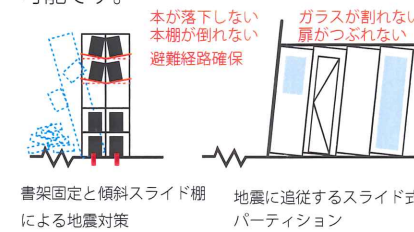
南三陸の自然資源を最大限に活用します

- ・無窓居室による内装制限を回避した計画により、「南三陸杉」を活用します。木材特性を考慮しながら、内装材、家具、サイン等へ活用し、温かく人々を迎え入れる木質感溢れた設えとします。
- ・ペレットボイラーによるバイオマスエネルギーを積極活用し、産業の活性化や環境保全、災害に強いライフラインの整備を目指します。



過去に学び未来へ向けた防災拠点とします

- ・防災学習の拠点として、常時町内外に向けて情報を発信する場となります。
- ・避難道路である国道45号や指定避難場所である志津川小学校に通じる道を確認し、緊急時の避難に備えます。
- ・書架や可動間仕切りなどは、地震時に危険がないよう十分に配慮します。
- ・区分が容易な施設構成により、非常時に施設の一部を開放したり、復旧期には多目的ホール等を避難施設として利用しながらも通常の運用を続けることが可能です。
- ・調理実習室の活用や、近隣の給食センターとの連携によって炊き出しを行うことが可能です。



まちの欲しい！を実現する取組体制

- ・基本構想や復興計画など、これまでの多くの検討の成果と「強い思い」をしっかりと共有し設計に望みます。
- ・南三陸町各関係者様との密なコミュニケーションによる対話型設計を行うとともに、ワークショップ等の実施により町民意見の反映を行います。
- ・利用者団体様をはじめとする町民皆様の意見を踏まえ、優先順位を整理し、関係者間で共有することで皆さんが求める施設を実現します。
- ・復興の勢いを止めない確実な工程管理を行います。決められた工期、コストを厳守する管理体制と、各ポイントでの達成目標を定めた設計スケジュールで業務にあたります。

